

本日のプログラム

<米山奨学委員会>

鈴木委員長

毎年「米山奨学豆辞典」という冊子を配布しておりますが、本年度のものがまだ届いておりません。そこで本日は昨年度のものから抜粋したものと、今まで私が米山について学んだこととお話させていただきます。

新しく入会された会員の方は米山についてわからないかと思しますので、まず歴史についてご説明します。日本のロータリーの創始者である、東京RCの米山梅吉氏の遺徳を記念して、1952年に東京RCが日本に留学している学生達を金銭的、精神的に支援する目的で米山基金を設立し、1962年には全国のロータリークラブの共同事業として（財）ロータリー米山記念奨学会が設立されました。2006年現在で世界106ヶ国からの13,322人（累計）の留学生を支援してきた、日本最大の民間奨学事業です。アジアに、そして世界に日本を理解してもらうには、一人でも多くの留学生を受け入れ、互いに信頼関係を築くことが大切というのが米山奨学の基本的な考え方ということです。

米山奨学資金の最大の魅力は、世話クラブ制度とカウンセラー制度があるということです。世話クラブ制度は、資金援助と会員との交流により、留学生がアルバイトをしなくても生活できるようにし、精神面も支援するというものです。カウンセラー制度は、留学生に対し、生活面や学業面でのよき相談相手となってあげるというものです。

米山奨学生の義務については、まず、世話クラブへの月1回の例会への出席があります。せっかくなので会員との交流を図り、色々なものを吸収して欲しいということです。その他、納涼会や旅行などへの参加も義務としています。また、学友会（現在の奨学生とOBで組織されている会）の総会や地区大会への出席も同様です。

2590地区の奨学生につきましては、当地区にある63のロータリークラブで世話している奨学生の数は43名です。これは全国の奨学生の5.3%にもあたります。現在、地区では米山奨学に対する個人寄付額が13年間

連続全国一となっています。寄付が多ければ受け入れできる奨学生の数も多いという訳です。2590地区で対象になっているのは、修士課程と博士課程のふたつだけですが、現実には大学学部、地区奨励、クラブ支援、海外学友会、現地採用などもあります。

奨学金の額については、現在、大学で月14万円、専修学校で月7万円となっています。1999年～2004年までは年間1,000名を援助していたため、集めた寄付では足りず、特別積立金を取り崩して援助してきましたが、2005年以降は取り崩しはやめて、寄付金に見合った援助をしようということで、受け入れ人数、金額ともに減らしたということです。

現在まで当クラブで世話した米山奨学生につきましては、1984年～85年まで、インドネシアから来たバンバン君をお世話したのが最初ということです。第2号は1992年～93年の戴國政さん（台湾）、以降、白石淑子さん（日本からタイの学校への送り出し）、李芳君（台湾）、キム・ムンスク君（韓国）、パク・デイルさん（韓国）、ノンバット君（ラオス）そして現在の林松国君となっています。

